

# ヤマト福祉財団 NEWS

ヤマトグループ賛助会員向けニュース(季刊)

発行部数12万部・非売品

YAMATO WELFARE FOUNDATION

No. 36

10月20日発行 2012 Autumn

[2012年度障がい者の働く場]

パワーアップフォーラム

経済的自立力を備えた  
新しい福祉に向かって



食肉用地鶏と短角牛の生産に挑む作業所月山

私たちの賛助会費が活かされています

■障がい者福祉助成金 助成先レポートVol15(鶴岡市)

新規事業開拓に挑戦!

エコフィードで

畜産の扉を叩く ..... p04

東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金

助成先を訪ねて

少しずつ一歩ずつ前へ

動きははじめました ..... p06

この街で一緒に生きていく  
障がい者のクロネコメール便配達

自分に向いている仕事に出会って、やりがいを感じています。 p16





# 経済的自立力を備えた

## 新しい福祉に向かって

『経済的自立力を備えた新しい福祉に向かって』をテーマに、今年も全国各地でパワーアップフォーラムを開催しました。小倉昌男賞受賞者の講演をはじめ、『行動につなげるシンポジウム』では地元事業所の代表者もシンポジストに加わり、仕事や組織のしくみを変えて工賃アップに取り組む現状を交えてディスカッションを行いました。この模様を東京会場を例にご紹介します。



有富理事長による基調講演（東京会場）



会場いっぱいの参加者（東京会場）



講師とコミュニケーションする  
交流茶話会（東京会場）



「企業性を取り入れてしくみを変え、売上増を図っています」  
行動につなげるシンポジウム（東京会場）

しくみや組織を変えようと  
考え方や行動が変わる

最初に有富理事長より『稼げる作業所への道』経済的自立力を備えた新しい福祉に向かって』をテーマに基調講演が行われました。  
「厚生労働省が発表した平成22年度の福祉事業所の平均工賃は1万3079円であり、大卒初任給の約20万円と比べ、あまりに格差が大きい」という厳しい現実を提示しました。また今回の震災で「経済的自立力のない福祉では利用者さんを守ることができない」という教訓を被災地から得たことを伝え、「工賃アップはもう待たない」と説明しました。

そして、利用者さんの障がいの重さ、福祉という枠を理由になかなか変わることでない現状を打破するために「まずは、しくみを変えていきましょう」と呼びかけました。ここで実際にしくみを変えて工賃アップに成功しているいくつかの事業所の例を紹介。「しくみを変えれば、考え方や意識が変わる。意識が変われば日々の行動が変わり、売り上げという成果となって見えてくる。そのためにもまずはしくみを変えなければならぬ。それぞれどう変えていくのか取り組めるように、ヒントを持って帰ってください」と挨拶しました。

続いてきょうされん藤井常務理事より『障がい者施設の明日を説

む』と題してわかりやすい時流講座が行われました。

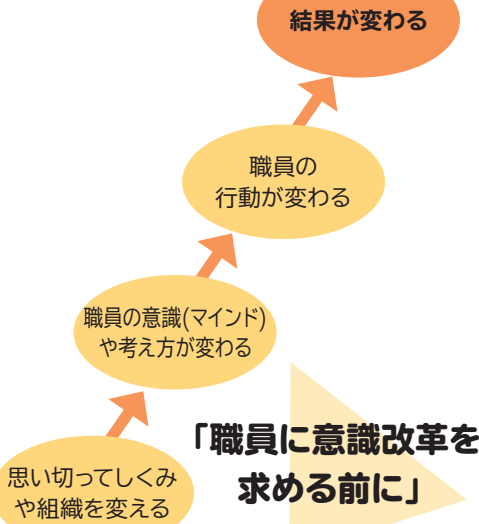
いま障がい者支援の見直すべきポイントとは「障がいを持たない市民と比べて暮らしや給与の質はどうか？ 日本と同じ経済力のある国と比べてどうか？ 過去と比べてどうか？ そして当事者の本当の希望に沿っているのか？」です。この当事者の希望という点では、現在、国際的に進められる「障害者権利条約」が障がい者＝当事者の声が反映されながら策定されていることなどを紹介されました。

### シンポジストたちの しくみを変える取り組み

午後は、小倉昌男賞の受賞者であるひびき福祉会の亀井勝理理事長、ウイズ町田の天野貴彦理事長による講演が行われました。その後は、このお二人に豊志会の近藤友克所長を加え「行動につなげるシンポジウム」が開かれました。ここでの話の焦点は、どのようしくみを変えていったかです。取り組み方はそれぞれですが、古い福祉の考え方を捨てる、という点が共通していました。

亀井理事長は、授産施設からの脱却を目指し、新しい多機能型事業所を立ち上げました。ここではマドレーヌをはじめとする品質・生産性の高い洋菓子を製造販売しています。品質を追求するためプロのパティシエのアドバイスを仰ぎ、職員も洋菓子作りの専門

### ■稼げる作業所への道



## 各地で開催されたパワーアップフォーラム



大阪会場



仙台会場



福岡会場



愛媛会場



### 2012 年度 パワーアップフォーラム

|      |       |               |
|------|-------|---------------|
| 大阪会場 | 7月20日 | 大阪国際会議場       |
| 仙台会場 | 8月3日  | TKP ガーデンシティ仙台 |
| 東京会場 | 8月24日 | 全社協・灘尾ホール     |
| 愛媛会場 | 9月7日  | ひめぎんホール       |
| 福岡会場 | 9月14日 | エルガーラホール      |

知識を学んでいます。利用者さんも生産性を上げ、衛生管理を徹底するための訓練を受けています。この時、壁となったのが古い福祉の考え方でした。そのため若い職員をリーダーに登用する決断も迫られたと話します。

天野理事長は「一時給500円と賃金規定を決めたことで、借金をしてでも取り決めた給与を利用者さんに支払わなければならぬのだということに全職員が自覚し、売り上げの上がる仕事を創り出す工夫、生産性を上げる努力が積極的に行われるようになった」と振り返ります。これで「いままでの福祉施設とは違う」という意識が全職員に根付きました。

近藤所長は、一般企業からの転職者で、最初は工賃の安さにショックを受けたと言います。売り上げを上げるには、市場に合ったビジネスへの転換が必要とマーケティングを行い、高齢者ニーズに応えた配食サービスをはじめました。3年間の事業計画を立て、マネージャー制度を作り、日々の売り上げチェックを行いながら、目標とする売り上げ達成に向けて改善を続けています。いまでは企業や学校などへのケータリングサービスもはじめています。

今後の課題や目標として、亀井理事長は「利用者さんも歳をとって、体力が衰えたり家族が亡くなれる方も出てきます。そうなった時も豊かな暮らしが送れるように支えていく工夫をしなければならぬ」と話します。

天野理事長は「売り上げに特化した法人を作るといふ亀井さんのやり方はぜひ参考にしたい。またこれからは、点ではなくネットワークで利用者さんを支えるしくみ作りも必要だ」と話しています。

近藤所長は「いま高齢者向け配食サービスには、多くの一般企業が参入しています。それに対抗するには、私たちもより企業性を取り入れた体制に改善していかなければ、今後の考えを語りました。

参加者からシンポジストへの質問も行われ、参加者全員が「くみくみ」を愛する手がかかりをひとつでも持ち帰りたい」とそんな熱気が会場に満ちていました。



私たちの賛助会費が活かされています ■ 障がい者福祉助成金

助成先レポート

Vol. 15

# 新規事業開拓に挑戦！

## エコフイードで畜産の扉を叩く

社会福祉法人月山福祉会  
障害福祉サービス事業 作業所月山  
就労継続B型／生活訓練  
(山形県鶴岡市)

年間3000万円強の売り上げを上げるリサイクル事業を武器に、障がい者の働く場として大きくなってきた作業所月山。しかし、未経験の畜産業に飛び込み、新たなフィールドを切り拓こうとしています。今号から当財団のレバルアップ助成金事業に選定された方々の取り組みをレポートします。

(レバルアップ助成金／給料月額平均2万円以上が条件。1件最大500万円を助成)

### 第2の事業を求めて…

「3年くらい経たんと、収支がはつきり分かります。まだ、飼育するのに一生懸命で、売り方も含めて、試行錯誤している段階です」と作業所月山の理事長・石

川一 郎さん。

庄内平野のへそに位置する鶴岡。周囲には田園が広がり、黄金色に輝く稲穂が風に揺れます。ただちや豆の生産も盛んです。

缶・ペットボトルのリサイクル業を中核事業とする作業所月山は、

県内の飲料ボトラーから廃棄される容器をタダ同然で仕入れて分別し、ペットボトルであればチップに粉砕するところまで行い、再生用に卸しています。他にも食品加工の廃棄物から犬用のビスケットを生産するといったことをしてきました。

しかし「どんな事業にも必ず波があります。リサイクル以外で柱となる事業を模索している中で、利用者の情緒により訴えかけるような事業がしたい…」と、生き物を扱う畜産業に白羽の矢を立てたのです。

### こだわりのエコフイード

作業所月山が挑むのは、食肉用の地鶏と短角牛の生産です。

そのうえ従来の海外産穀物飼料に頼らず、地場で出たクズ米やクズ大豆など、食品加工で出る副産物をリサイクルして飼料化するエコフイードに徹底的にこだわる野心的な試みです。エコフイードに



作業所月山の前でみなさんと。写真右が早坂執行委員



この機械で初めて作った乾燥おから（米ぬか30%入りのため、茶色い）



ヤマト福祉財団が助成した菌体飼料製造機



雨の日も風の日も休みなく自転車で40分もかけて、牛の餌やりに来る鈴木良徳さん

みらい地鶏の鶏舎。掃除も餌やりも利用者さんの仕事です



## 携わっていらっしゃる方に 深く感心させられました



●ヤマト運輸労働組合  
山形支部執行委員  
早坂 勉さん

私の担当しているエリアにも作業所が何軒もあり、よく集荷などにお伺いします。しかし、本日の取材であらためて、私たちの想像以上のご苦労と、職員の方の一生懸命さや熱意というものを、つくづく感じました。

ふつうの感覚であれば、売上がいくらいくらと、すぐ計算に先走ってしまいがちです。しかし3年先を見据えて、未来への種まきを地道にやっていたらっしゃる…。とても感動的でした。

カンパしていただいたお金がこういう形で、社会や作業所で役立っていることを、もっと皆さんに理解していただきたいですね。正直、シーズンのときだけ、「カンパ、カンパ」と言っても意味がありませんし、みなさんもピンと来ないと思います。

公共の道路を使わせてもらって私たちは成り立っています。そこには、何かしらを社会にお返しする気持ちも大切だと、再確認をした訪問でした。



魚のアラや野菜クズで作る  
ワンちゃんビスケットも売  
れ筋商品



作業所月山の中核事業である各種ボトル  
のリサイクル事業。施設が小さな工場に  
なっている



月山山麓の月山高原牧場に放牧されている牛たち



庄内平野の一角、1500坪の敷地に1棟120坪の牛舎が  
5棟、他に管理棟などがあります

すること、利用者の仕事領域の  
拡大、飼料代の大幅な削減といっ  
た効果も期待できます。  
ちょうど売りに出ていた牛舎5  
棟を購入し、昨年からの事業をス  
タート。エコフィードの生産に必要  
な菌体飼料製造機の購入には、当  
財団のレベルアップ助成金に申請

### スタートから紆余曲折！

し、その500万円を購入費用に  
充てました。

しかし、地元のブランド地鶏を  
生産しようとした当初の計画は、  
「残飯をブランド地鶏に与える」と

は何事かと、ヒナの提供協力が得  
られませんでした。しかし、諦めき  
れない石川さんは、肉質でむしろ  
勝るとも劣らない信濃地鶏の提供  
を、松本市の種鶏場から取り付け、  
許可を得て山形「みらい地鶏」と命  
名。無事、出荷にこぎ着けました。  
さらに来年3月には、さまざまな  
条件でエコフィードを与えた地鶏  
の食味や栄養価などを、大学の研  
究室で化学的に分析してもらい、  
飼育法の有用性を確かめることに  
しています。

一方、脂肪分の少ない赤身が特  
徴の短角牛は、自然の草木を食べ  
て大きく育つ品種。海外産飼料に  
頼らないエコフィード飼育にはま  
さに打ってつけです。さらに、春夏  
は山に放牧し、冬になると里に下  
ろしてくる「夏山冬里」方式を採用。  
この夏は16頭の牛が、自然の中に

### 夢あふれる未来に向けて

この先は「もっと増産して、販路  
拡大にも力を注がなくては」と展  
望を語る石川さん。  
三年後の目標給料は4万878



理事長  
石川一郎さん

放牧されていました。

しかし、のびのびと育った短角  
牛はヘルシーとの評価もある反面、  
サシが重要視される国内では安価  
で取引され、黒毛和牛とくらべ、利  
益は桁違いに低いのが実情。「エ  
コフィードで飼料代をいかに抑え  
られるかが今後の鍵」だそうです。

円。最終的には「13万円超を目指し  
たい」と志を高く掲げます。  
「利用者が何を求めている、何に  
対して問題意識を持っているのか  
を、つねに忘れないように気をつ  
けています」そうして、「いずれ  
は食肉加工や焼き肉レストランな  
ども自前でできるようになれば  
…」と、夢は膨らみます。  
売上や職域の拡大を目指す、作  
業所月山の挑戦はこれからが正念  
場です。



助成先を訪ねて

# 少しずつ 一歩ずつ前へ 動きはじめました

震災から1年半以上が過ぎ、各地の助成事業も一つひとつ具体的な形となつてきました。しかし、まだ多くの課題を抱えているのも事実です。復興を目指して、どのように事業は進められているのか、その最新動向をお伝えします。

岩手県  
[水産加工事業者生産回復支援事業]  
大船渡市



岩手県  
[魚価安定緊急対策事業]  
大船渡市



宮城県  
[農業生産復興緊急対策事業]  
石巻地区

青森

盛岡

福島

仙台

石巻

安川

よつくら



岩手県  
[水産共同利用施設復旧支援事業]  
普代村

普代村

大船渡



宮城県  
[高鮮度水産物供給施設整備事業]  
女川漁港、石巻漁港



特定非営利活動法人よつくらが「よつくら港地域振興施設「交流館」復興事業」



完成式典が盛大に行われました

8月11日、特定非営利活動法人よつくらが運営する「道の駅よつくら港交流館」が竣工し、完成式典並びにオープニングイベントが開かれました。当日は、復活を待ちわびていた多くの地元市民や観光

待望の人氣スポットの復活に  
大勢の方が詰めかけました

【よつくら港地域振興施設「交流館」復興事業】

(第1次助成) 特定非営利活動法人よつくらが

日本で唯一“港の中にある道の駅”  
地域復興のシンボルとして復活



防災設備も備え生まれ変わった  
『道の駅よつくら交流館』

客が詰めかけ、行列ができるほどの大盛況となりました。この様子を見て、よつくらがの佐藤雄二理事長、白土健二駅長は再開の喜びを噛みしめます。

道の駅よつくら港『交流館』は『日本で唯一港の中にある道の駅』として、平成21年にオープン。年間60万人もの利用客が訪れる人氣スポットでした。地元の農水産物を提供する重要拠点として190人もの生産者による直売所、地ものを使った料理を提供するレストランなどがあり、地域雇用の場、地域交流の場として多くの人に愛されてきました。しかし、津波がそのすべてを奪い去りました。

「町もまるでゴーストタウンのようにになりました。被災直後は食物もままならなかったので、会津から野菜などを分けてもらい、交





完成を待ちわびた多くの人がオープンに駆けつけました

流館で炊き出しを行いました。温かい食べ物を手にも喜ぶみなさんの笑顔を見て、なんとか交流館を再開しなければと誓ったのです」と佐藤理事長は当時を振り返ります。

**交流館の直販で生計を立てる 地元農家のために**

ボランティアの方たちの協力を得ながらガレキを片付け、震災から約1カ月後には仮設店舗で土日の営業を再開。7月には平日営業も再開できました。しかし、道の駅としての完全な物販機能を発揮するにはまだ至りません。

「なによりも困っていたのは、ここで直売することで生計を立てていた地元の農産物生産者です」と白土駅長。さらに原発事故の風評被害が追い打ちをかけます。もう国の助成を待っている時間はない、一刻も早く交流館を復活させたいと本助成に申請を行いました。

生まれ変わった交流館は、鉄骨作りの2階建て、黒と赤を基調にした外観です。1階は地元生産物

の直売スペース、2階は地元ならではの食事を楽しめるフードコートとなっています。また、震災での教訓を生かし、各種防災設備も整えました。

**交流館は地元復興の拠点 地域みんなで盛り上げよう**

オープニングにはさまざまなイベントも催され、夜には交流館だけではなく県内四つの会場、そして被災3県が同時に花火を打ち上げ、地域が一体となって復興の気運を高めています。

交流館の外側の柱にはめ込まれた約600枚の陶板には「海がすき、四倉がすき」「明るい未来をつくってこう」「幸せはこころの中に」「など、地元復興を願う市民からのメッセージが描かれています。これはそもそも平成21年のオープン時に地元小学校の児童たちが寄贈した陶板が、厳しい津波にも負けずに残っていたものをヒントに作成されました。

完成式典で佐藤理事長は「人が集まれる場、働ける場、販売・流通の場となるこの交流館が、地元復興のシンボルとなるように、みなで力を合わせて盛り上げていきましょう」と挨拶をしました。



「みんなの期待に応えたい」と陶板の前に語る佐藤理事長



津波で使用不能になっている鎌田水産の冷蔵庫 (大船渡市)

**せっかく水揚げした水産物も このままでは鮮度を保てない**

岩手県の沿岸部は、豊かな水産物が獲れる全国有数の漁場です。しかし、震災により物流の拠点となる冷凍倉庫の大半が損壊してしまいました。このままでは漁を行っても水揚げした水産物の鮮度を保持できず、魚価は暴落してしまいます。急ぎ県内外の被災を免れた冷凍倉庫を持つ事業者に協力を仰ぎ、水産物を保管できる体制を

## 〔魚価安定緊急対策事業〕

(第1次助成) 岩手県

### 県内外の冷凍倉庫への水産物の 輸送費、倉庫使用料などを助成



水揚げした水産物の安定供給のために

整えなければなりません。そのためには、水産物の輸送費、保管する倉庫の使用料などが必要です。そこで岩手県は本助成に申請し、県内四つの団体、久慈市冷凍水産加工業協同組合4社、宮古水産加工業協同組合13社、釜石流通団地水産加工業協同組合10社、大船渡湾冷凍水産加工業協同組合9社の計36社に支援を行いました。

今回は、その団体の一つ大船渡湾冷凍水産加工業協同組合の組合員である鎌田水産株式会社を訪ね、お話を伺いました。

### 立ち直れる環境が残っている 力を合わせる仲間がいる

鎌田水産株式会社は、水産物の冷凍冷蔵品の生産・出荷を主事業としています。ところが震災で事業を支える重要な施設である五つ

の冷凍倉庫のうち、三つが壊滅的な被害を受け、残りの修理しなければすぐには使えない状況です。しかし、鎌田代表取締役は、決して悲観的にはなりません。

「まだ立ち直れる環境にあるのですから、やるしかない。8月のお盆前には再開できるようにしよう」と、みんなで力を合わせてガレキ処理からはじめました。こうして昨年9月からのサンマ漁に間に合わせる事ができました。ただし、水揚げされた魚を冷凍保存できる施設は自分たちにはありません。

「沿岸部の近くの倉庫は大半が被害を受けていますから、仙台、盛岡、八戸、銚子などの冷凍倉庫にご協力いただいています。問題はそこまで運ぶ輸送費、保管料、入出庫料。これを助成いただき、本当に助かっています」。

いまは自社の冷凍倉庫施設を建設するため、準備を進めています。が、地盤沈下などもあり、建設地を確保するのも大変です。

「困っているのはうちだけではありませんからね。いまはみんなで力を合わせることで、前に進めると思っています」と鈴木由也常務取締役は話しています。



お借りしたまるか冷蔵庫に製品を輸送し保存



〔農業生産復旧緊急対策事業〕

(第2次助成) 宮城県

震災からいち早く立ち上がった  
農業生産者 93 事業体を県が支援



ハウスの中ですくすくと育つ農作物

営農再開へ、みんなを  
力を合わせ、知恵を出し合う

想像を超える巨大な地震と津波により大切なパイプハウスや農業機械、施設などをあつという間に奪われてしまった宮城県の農業生産者たち。残された田畑もガレキに埋もれ塩害で厳しい状況にあります。それでも「震災に負けてなどいられない」とみんなで力を合わせ、知恵を出し合い、営農再開に立ち上がった人たちがいます。

宮城県は、動きはじめた農業者組織を本助成で支援しています。これまで本誌でもご紹介してきたいちご農家やトマト生産者などを始め、全93の事業体に約13億円の助成を行いました。今回は、石巻地区で営農再開に頑張るお二人の農業生産者の姿をお伝えします。



収穫したトマトを手にする阿部市太郎さん

石巻地区園芸生産組織連絡協議会  
いまだに聞いたことのない  
轟音とともに周囲が真っ暗に

石巻地区園芸生産組織連絡協議会の阿部市太郎さんは、海岸沿いにある釜地区に八つのパイプハウスを持ち、夏にトマトを、春にはダイコンを栽培していました。



助成をもとに建てたビニールハウス

自宅が広いでいる時に地震が襲ってききました。急ぎハウスに駆けつけビニールをかけていると、いまだに聞いたこともない異様な音が…。ふと周りを見ると真っ暗になり、目の前の民家も見えなくなっていました。

「いま考えたら津波が襲ってきたんです。その時は、なにが起きたのかわかりませんでした。慌てて作業場の2階に逃げ込みましたが、そこに20センチ以上も水が入り込んで来て…。あの時は、ああ終わりだと思いました」。

幸い阿部さんは無事でしたが、四つのハウスはグシャリと潰れ、残りは地中に埋め込んだ杭ごと浮き上がってしまいました。土地も塩害のため使えるまでには時間を要します。自宅ももう住める状態ではありませんでした。

土が変わり栽培は難しいが  
再開できた喜びは大きい

「営農再開の助成を受けるには、とにかく土地を確保しなければ」

須賀川市

〔農業生産再生事業〕

(第1次助成) すかがわ岩瀬農業協同組合  
常温から低温管理できる新倉庫へ



いまだに6カ所あった倉庫を一つに集約

最新鋭の放射線測定機器も備え  
風評被害からの信頼回復を目指す

8月2日、今年1月30日に起工式が行われた福島県須賀川市の農業用低温倉庫が完成し、竣工式が開催されました。震災で苦しんでいた農業生産者にとって、新しい農業倉庫は復興への扉を開く希望の象徴となっています。

須賀川市は県下有数の農業地帯ですが、ため池の決壊により、内陸の津波と言われるほど甚大な被害を受けました。六つあった農業倉庫もことごとく損壊。さらに追い討ちをかけるように原発事故の風評被害に遭います。「奪われた信頼を回復するために一刻も早く



コンベアに載せるだけで1分間に30キロのお米約6袋を検査

動き出さなければ…。福島県の中通りに位置する3市町村に約1万人の組合員を有するすかがわ岩瀬農業協同組合は、この窮地を脱するために本助成を活かして、新しい農業倉庫の建設を計画します。損壊した六つの倉庫の一つの大型低温倉庫に集約し、これまで常温で保管していた米を低温保管することにより品質管理を徹底でき、かつ大型化により検査・流通の効率化を図りました。さらに全量検査できる放射線測定機器も導入しました。

この放射線測定機器は、従来までの一部のサンプルを検査するタイプではなく、ベルトコンベア式でスピーディに一袋そのまま全量検査できます。須賀川市の農業生産者は組合と力を合わせ、消費者に安心・安全なお米を提供するために着々と歩き出しました。

竣工式で橋本正和代表理事組合長は「県下有数の農業地帯であるすかがわ岩瀬の農業復興なくして、地域振興はあり得ません。この高性能な倉庫を有効に活かして信頼回復に努めます」と話しています。



そう悩んでいた時、親戚から、空いた土地があるのでそこを使つてはと声がかかりました。これでハウスの建設費などの支援を受けることができました。

「助成が決まった時は、心底ほっとしました。震災後は呆然とした状態が続いていまして、ここで再開できないのなら、もう農業は辞めようかとまで考えていました」。

以前は3200本以上植えていたトマトの苗も、いまは2200本程度に。またこれまでの海岸沿いの砂地から、新しい粘土質の農地に変つたため、思い通りの収穫量を得ることもできていません。それでも阿部さんの表情は明るく、生き生きとしています。

「土地が変わると、病気の種類も変わるんですね。農業は本当に難しい。でも再開できている喜びの方が、こんな苦労よりも何倍も大きい。もつと土の勉強をしてがんばりたいと思います」。

いま阿部さんは、再出発のために、新しい自宅も建設中です。

### いしのまき農業協同組合 自宅を支援所に提供 みんなで炊き出しを開始

地震が発生し、いしのまき農業協同組合の管内で農業を営む渥美弥平さんの自宅前の道路には、避難する車で渋滞していました。そこに河を逆流した津波が堤防を破り押し寄せて来ます。高台にある渥美さんの自宅には、車を捨てて助けを求めて人が駆け込み、渥美



もうすぐで刈り入れです、と話す渥美弥平さん

さんは11名の方とともに2階に避難。浸水は1階の畳の下まで迫ってきました。余震の続く中、みんなで水の引くのを待ち、三日目でやっと動ける状態になりました。

「近所の仲間と話し合い、とにかく支援所を作らなければと自宅を解放しました。みんなで食べ物を持ち寄り炊き出しをはじめ、この地区70軒ぐらいの方に、おにぎりを作つてみんなで届けました」。

3月20日に町役場から支援物資が届くまで炊き出しを続けました。

### 後継者がいるのだから まだまだがんばれる

渥美さんは、自宅の周りに6町の田圃を持っていますが、この辺りは水はけが悪く暗きよ排水機械が必要です。そこで組合を作り、施設を共有してきました。しかし震災でその施設が破壊され、ここでの営農再開は困難になりました。それでもいしのまき農業協同組合が、本助成を使ってトラクターや



リース代を助成してもらい損壊した農業機械を補充



雑草に覆われてしまったかつての田圃

乾燥機などのリース代の支援を行うと聞き、別の場所の田圃4町からの営農再開に立ち上がりました。「娘が農業を継いでくれると言ってくれていますので、こんなことであきらめる訳にはいきません。市と協力しながら農地の確保に向けて仲間と一緒に取り組んでおり、営農できる田圃が増えることを信じています」。

刈り入れまで後2週間と元気に育った稲を前に、渥美さんは力強く今後の夢を語ってくれました。

## 東白川郡 埴町

### 【地域農業再生基幹施設緊急整備事業】 (第4次助成) 福島県東西しらかわ農業協同組合 東部地区の大型低温倉庫が完成



●東部共同農業倉庫  
低温農業倉庫／鉄骨平屋  
建て／建物943㎡、敷地  
1,309.50㎡

農業倉庫を東西2カ所に集約し、農産物の物流の合理化を進めています。そのうちのひとつ「東部共同農業倉庫」が完成しました。

9月19日の竣工式で鈴木昭雄組合長は「従来の常温の石蔵倉庫は、季節により場所を移動させて品質管理しなければなりませんでしたが、新しい農業倉庫は低温管理が可能で、労力を軽減しながら品質向上が図れます」と説明されました。

また倉庫入口には、放射能の全量検査可能な機械も導入します。

「福島県の米の信頼は、県内すべての農業生産者で守っていくべきです。この農業倉庫が地域復興の起爆剤となるようにしていきたい」と今後の抱負を話されました。



倉庫には22,000俵(60kg/俵)を収容できます

西部地区の共同倉庫は来年1月に着工し、7月竣工の予定です。

### 損壊した農業倉庫を二つに集約 合理化を図り、労力の軽減

福島県東西しらかわ農業協同組合は、震災で破壊された5カ所の

### 第3次助成先

### 社会福祉法人陸前高田市保育協会 陸前高田市竹駒保育園の新設・再建事業

2012年7月30日、来年1月完成を目指す陸前高田市竹駒保育園の地鎮祭が行われました。「子どもたち全員をしっかりと受け入れられるように、職員一丸となり準備していきます」と村上和加恵園長は話しています。



新保育園は、以前より10メートルほど高い位置に建設され、規模は約1.5倍になります

地鎮祭でくわ入れ  
を行う有富理事長



土地をかさ上げた建設予定地



## 【高鮮度水産物供給施設整備事業】

(第1次助成) **宮城県**

### 県内五つの漁港に製氷設備を支援 水揚げ機能回復を図る



カツオの水揚げで活気づく石巻漁港

#### スラリーアイス製氷機で 魚介の商品価値を高める

宮城県は本助成金6億円を活用し、津波の被害から復旧を図る県内五つの漁港の水揚げ機能を高める製氷設備の支援を進めています。中でも魚介の商品価値を高めるのに役立つとして期待されているのが「スラリーアイス製氷機」です。スラリーアイスは、真水でつくる普通の氷と違い、海中の水の分子を小さな粒状の氷の結晶にするため余計な真水を一切加えません。しかも、殺菌処理した海水を混ぜてシャーベット状にするので、魚体を傷つけず、より素早く均等に最適な温度で魚全体を冷やすことができます。このスラリーアイス製氷機を導入した、石巻と女川漁港の様子をお伝えします。

#### 石巻市水産物地方卸売市場 (石巻漁港)

#### スラリーアイスを効果的に 活用できる方法をテスト

震災前、冷海水装置を完備した石巻魚市場には、カキやホタテやホヤ、カツオ、サバ、サンマ、スルメイカなど豊かな魚介類が水揚げされ、たくさんの作業所で多くの人が働いていました。

「震災前は、生産・加工会社が207社、約5000人が市場周



スラリーアイス製氷機



昨年7月に再開した市場



左から須能代表取締役社長、志摩取締役、川耕取締役部長、及川取締役部長

魚市場(株)の及川耕吉常務は話します。

地震と津波に襲われた市場周辺は、ほとんどの建物が破壊され、地盤沈下のため浸水もしています。この土地のかさ上げ工事と並行して、本助成でスラリーアイス製氷機の建設が進められました。

「スラリーアイス製氷機が入り、市場の機能は一つひとつ整いはじめています。水産物の水揚げも徐々が増えてきましたし、これらががんばりどころです」。

今後の課題は、いままで使っていた製氷、冷海水装置と性能の異なるスラリーアイス製氷機をどう活用するかです。

「ユーザーのみなさんの声を聞き、石巻魚市場で提供できる水産物の商品価値を高める方法を一つずつ探っていきたい」と須能邦雄代表取締役社長は話しています。

#### 女川町地方卸売市場(女川港)

#### 安心して水揚げできる 魚市場の受け皿機能を強化

市場の屋根を越える15メートルもの大津波は、女川港にあった作業所や水産加工会社、冷海水・製氷装置などをすべて押し流してしまいました。地震で地盤沈下も起き、岸壁が使えなくなりました。

「土地をかさ上げし、仮設の水揚げ岸壁を作り、どうにか水揚げを再開できたのは昨年7月です。当時は魚体選別機もなく大変でしたが、再開できた喜びでなんとか対応できました。しかしこのままでは水産物の鮮度を保つことは難しく、一刻も早く鮮度保持設備を必要としていましたので、スラリーアイス製氷機が導入できた時は、本当にうれしかった」と(株)女川魚市場の加藤専務は話します。本助成でスラリーアイス製氷機が完成したのは今年6月29日、本格的に移動したのは7月からです。

「現在は定置網も3カ所まで設置され、1日の水揚げ量も約100トンに増えています。と言ってもまだ震災前の水揚げの半分



女川町のみなさんと加藤魚市場専務(右から二人目)

くらいです。すから、もっと水揚げを増やしたい。しかし、かつて冷海水



水揚げされたサンマはスラリーアイスで鮮度保持



スラリーアイス製氷機

それでも銀サケは70%近くまで回復し、サンマ船も順調に戻ってきています。大型船の水揚げもできるようになりました。「安心して水揚げができる市場としての受け皿機能をさらに整え、水揚げ量を増やしていきたい」と加藤専務は話しています。



気仙沼市は生鮮カツオの水揚げで全国一、他にもマグロやサンマ、サメ類などの水揚げも豊富であり、水産加工業は主力産業として地域の人々の生活を支えていました。この辺りの水産加工業者は、自宅と工場を兼ね備えた小規模なところが多く、施設や設備も数十年かけて充実させてきました。ところがそのほとんどが津波によりあっという間に損壊。原料や加工品も大半が流されてしまいました。

「この組合員も着の身着のままですらうじて避難した状態でした。やがてバラバラになっていった組合員たちが一人、また一人と集まり、これからどうしていくか、話し合いはじめました」と気仙沼水産加工業協同組合の清水徹二代表理事組合長は振り返ります。

話し合った結果、気仙沼水産加工業協同組合および加盟組合員のうち9社は、気仙沼市が建設する仮設水産加工団地に入居を申し込み、事業の再開を目指すことにしました。しかし、国の支援は建物を中心で、水産加工場として機能するまでの敷地整備や内装工事、機械設備類の費用は、自己負担です。これ以上の負担に組合員はとても耐えられそうもありません。そこで本助成を活用し、再起を図ることにしました。

**建物だけでは仕事はできない  
本助成で工場設備などを整備**

早速、組合は本助成を活かして敷地などのインフラ整備をはじめました。また国の支援も合わせて

**助成でそれぞれの加工技術を  
活かせる設備などを導入**

カツオとサンマの加工を主に行うカネタケ畠山商店の畠山孝志さん



カツオ節をいぶす焙乾室（マルチュウ斉藤商店）

カネヒデ吉田商店の吉田久雄さん



イカの塩辛をつくるフィッシュカッター（やまひろ佐藤商店）

気仙沼の水産加工業がかつての姿を取り戻せるように、仮設水産加工団地では一人ひとりが前向きに自分の仕事に取り組んでいます。

サンマのみりん干しや甘露煮、イカの塩辛などを製造しているやまひろ佐藤商店の佐藤卓威さんは、「お客様はうちの味を覚えてくれているはず、そう信じて頑張ります」と話します。助成では塩辛をつくる機械、冷蔵庫や冷凍庫、製氷機なども購入しました。

「震災ごときで自分の人生を決められたくない」と話すマルチュウ斉藤商店の斉藤孝志さんは、カツオ、サンマの他にサバの調味加工も行っていました。助成を活かしてボイラー室や焙乾室をつくり、電気・水道設備も整えました。今後は問屋だけでなく一般のお客様にも販売したいと考えています。

「震災ごときで自分の人生を決められたくない」と話すマルチュウ斉藤商店の斉藤孝志さんは、カツオ、サンマの他にサバの調味加工も行っていました。助成を活かしてボイラー室や焙乾室をつくり、電気・水道設備も整えました。今後は問屋だけでなく一般のお客様にも販売したいと考えています。



作業場の電気、水道設備を整備（カネタケ畠山商店）



フカヒレ梱包圧縮機（左）と製氷機（右）を購入（カネヒデ吉田商店）

## 〔仮設水産加工場施設設備整備事業〕

（第5次助成） 気仙沼水産加工業協同組合

### 仮設水産加工団地に入った工場の内装や設備などの整備費用を助成



アスファルトで舗装整備した母体田地区水産加工団地内敷地



一階から二階へ荷物を運ぶ昇降機を設置（マルチ村上商店）

50トン／日の能力を持つ排水処理施設も建設し、周辺の養殖業に迷惑をかけないように配慮もしています。組合員は、それぞれに培ってきた加工技術を活かせるように、設備や機器の導入を助成で進めていきました。そして今年9月、すでに操業を再開としている7社に加え、残り2社の再開のめども立ち、晴れて竣工式を執り行うこととなりました。

竣工式で母体田地区水産加工団地の会の会長であり、マルチ村上商店の村上祐一さんは「被災した時、お客様からの励ましの手紙に助けられました」と話します。そこには「また御社の商品が食べたい」が大変でしょうが頑張るという言葉が通じて、まだ私たちは多くのお客様とつながっている、そう思うと元気が出てきました。みんなで力を合わせ、一刻も早く震災前の売り上げに戻せるように頑張ります」と挨拶をしました。



## [水産加工事業者生産回復支援事業]

(第1次助成) **岩手県**

### 本助成を活用し民間の水産加工会社107社を支援



多くの会社が、大船渡の海の幸を活かした水産加工業を営んでいます

**漁業・養殖業・水産加工業を  
一体とした早期復旧が大切**

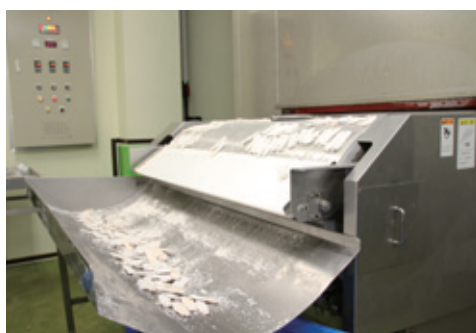
震災で大打撃を受けた岩手県の水産業の再生には、漁業・養殖業・水産加工業を一体とした復旧が必要で、そのどれが欠けてもかつての豊かな岩手県の水産業の活気を取り戻すことはできません。しかし、震災当時、民間の水産加工会社への国からの早期助成はまだ難しい状況にありました。そこで岩手県は本助成に申請し、助成金16億円を使って107社の民間企業に支援を行いました。各企業は、津波や地震で破壊された各種設備などを購入し、工場再建に向けて前進を続けています。

今回は、その中から大船渡市にある三つの水産加工会社の様子をお伝えします。

#### 森下水産株式会社 津波で設備や冷蔵庫とともに 1年分の原料も損失

森下水産(株)は、サンマとイカを中心にフライや唐揚げの冷凍加工食品を作り、全国のスーパーやコンビニなどに販売しています。地震に襲われた時、本社工場では約105名の従業員が就業中で、急ぎ従業員を庭に集合させ点呼を取り、全員の無事を確認してから避難させました。後に残った幹部など5、6名が、さあ避難しようとした時、工場前の川の土手を乗り越えて真っ黒な津波が迫ってくる姿が見えました。

「社長の『逃げろー』の一声に高台にある近くの三陸鉄道に向かってひたすら走りまわりました」と森下幸祐専務取締役。津波は本社2階に



瞬間冷凍され完成した冷凍食品



原材料を加工しトンネルフリーザーへ

#### 助成で生産の要となる トンネルフリーザーを購入

森下水産(株)では、冷凍食品の最終処理を行う2台のトンネルフリーザーを有していました。一つは破壊されてしまいましたが、幸い1台は修理可能な状態でした。工場にはガレキや泥が流れ込んでいますが、辛うじて骨組みが残され再建が可能です。ガレキを取り除き、工場内をきれいに洗浄。残った1台のトンネルフリーザーの修理を行い、震災から4カ月後の昨年の7月になんとかワンラインを稼働できるようにできました。しかし、この間に離れてしまったお客様もいます。

「取引先の中には、心配して激励に來られた方もいらつしやいましたが、この惨状を見て簡単にかつての生産体制には回復できないと判断されてしまわれた方もいます。それは仕方のないことですが、一刻も早くお客様の信頼を取り戻さなければなりません」。

そこで今回の助成で新しいトンネルフリーザーをもう1台購入。震災前と同様に2ラインで生産できるようにしました。

「現在、8割ぐらゐまで生産能力



工場の中で森下幸祐専務(左)と森下幸祐専務(右)は回復して開時の従業員は、販売担当も合わせて約30名でしたが、



川縁の桜並木も、津波で根こそぎ流された

#### 株式会社國洋

#### 取引先の信頼をつなぐため 一刻も早く工場を再開

スルメイカのフライ、唐揚げ等の冷凍加工食品を製造販売する(株)國洋も津波により、三つあった工場すべてが被害を受け、保存していた商品や原材料、そして大切な設備の大半を損壊しました。

「津波ですべての工場がぐちゃぐちゃになってしまいました。本社工場の躯体はなんとか修復可能でしたが、設備機材はすべて駄目になっていました。他の二つの工場は閉鎖を余儀なくされました。それでも私たちには、立ち止まっている時間はないのです」と濱田浩司代表取締役は話します。

一刻も早く工場を再開しなければ、いくら信頼をいただいているお客様でも、品物を求めて別の取





イカリングを作るリングカッター

引先に変更をせざるを得ません。そこで本社工場にすべてを集約させて復旧に力を注ぎました。

「震災当時は、どこも復旧工事などで人手不足が深刻で工場再建は思うように進みませんでした。それでもなんとか7月には再稼働させることができ、再開した工場を見た時、ああよくここまで来れたな、と感無量になりました」と濱田代表取締役は振り返ります。

**販路拡大、生産力回復へのアイデアをひねる**

なんとか早期再開は実現したもののそれでも三つの工場で働いてい



株式会社 国洋 第二生産食品工場 濱田浩司代表取締役

「いまはまず販売先を少しでも確保、拡大して足下を固めていくことです。できる限り機械化を進め、作業効率を上げることも考えています。また、いままでは水揚げされたスルメイカを仕入れて一から加工していましたが、これからは切り身になった物を仕入れてフライや唐揚げにす

るなど、産業化も視野に入れています。この助成金のおかげで、これまで以上に生産体制を強化していく必要があります。しかし、それには時間も費用もかかります。

「いまはまず販売先を少しでも確保、拡大して足下を固めていくことです。できる限り機械化を進め、作業効率を上げることも考えています。また、いままでは水揚げされたスルメイカを仕入れて一から加工していましたが、これからは切り身になった物を仕入れてフ

「どうやっていこうかと悩んでいる時に助成のお話がありましたので、本当に助かりました。おかげさまで皮すき機、自動計量包装機、リングカッター、シャトルコンベアなど、津波で失った多くの機械を助成で購入することができ、一歩前進することができました。」

しかし、工場が三つあった時代に比べれば、まだ生産のキャパシティは万全ではありません。これから売り上げ増を目指していくには、新工場を建てて生産体制を強化していく必要があります。しかし、それには時間も費用もかかります。

た従業員175名のうち、復職できているのは1/3程度です。売上も40%ぐらいにしか回復できてはいません。再建していくにはまず工場の設備を整え、生産力を高める必要があります。



鮮魚定量縦並べ装置

成を機に、(株)国洋は新たな方法にも意欲的にチャレンジしていこうとしています。

**東和水産株式会社 大船渡工場**

**従業員の生活のためにも 簡単にはあきらめられない**

東京本社から届け築地市場などの市況、情報をもとに、大船渡魚市場に水揚げされるサンマやサバ、アミエビなどを、顧客の要望に応じた冷凍製品として加工・供給していく。東和水産(株)の大船渡工場は、確かな技術と実績を積み重ねていました。この海岸沿いにあった三つの工場すべてが津波により壊滅的な被害を受けました。

「正直、企業努力をすればなんとかなるという状況ではなく、廃業まで考えていました。しかし、従業員の生活がかかっていますから、簡単にあきらめる訳にはいきません。それに長年築いてきたお客様、地域のみなさんとの信頼関係をな

んとしても守りたいと、再建の決意を固めました」と後藤勤二郎常務取締役は当時の心境を振り返ります。

大半の設備を失った工場再建の道は平坦ではありませんでした。それでも昨年9月のサンマの水揚げに合わせて工場を再開でき、復興の一步を踏み出しました。

第1次助成

**宮城県 養殖用資機材等緊急整備事業**

宮城県は、本助成で養殖業者を支援しています。その一つが宮城県漁業協同組合石巻地区支所です。地震発生時、組合員はカキ処理場で殻むき作業中でしたが津波が来る前に無事に避難できました。しかし、石巻湾にあった約60のカキの養殖棚は津波で全滅。なんとか他地区より種を入手し、通年の1ヵ月遅れで植え付けを終えましたが昨年の生産量は例年の約4割でした。今年は7割以上の生産量に、と目標を立てがんばっています。

「今年はカキの身も大きく育っています」と石巻地区支所みなさん本助成で購入したトラックの前で

カキ処理場に必要の資機材を共同利用できる用具倉庫を助成で購入

「今回の助成でサンマ加工処理作業を行う上で必要不可欠な機械などをしっかりと揃えることができ、心から感謝しています」と後藤常務取締役。購入したのは、縦並べ装置3台、コンベア・フリーローラー、水供給装置などです。この装置導入で震災前に比べサンマ一日あた

「かつて大船渡工場には、これがなければ工場が成り立たないとも言えるほど立派な3000トンの冷蔵庫がありました。しかし、震災時の延焼により焼失してしまっただけです。これに代わる冷蔵施設を建設できるように検討しています。」

現在は、マグロ漁に使用する冷凍サバの加工も再開し、一つずつ復興へのステップを進み続ける東和水産(株)。一刻も早くすべての従業員が復職できるだけの体制を取り戻せるように、東和水産(株)は努力を続けています。

「かつて大船渡工場には、これがなければ工場が成り立たないとも言えるほど立派な3000トンの冷蔵庫がありました。しかし、震災時の延焼により焼失してしまっただけです。これに代わる冷蔵施設を建設できるように検討しています。」

現在は、マグロ漁に使用する冷凍サバの加工も再開し、一つずつ復興へのステップを進み続ける東和水産(株)。一刻も早くすべての従業員が復職できるだけの体制を取り戻せるように、東和水産(株)は努力を続けています。



後藤勤二郎常務取締役

りの処理量は60、70%まで回復しています。しかし、まだ設備は完全ではありません。せん。



## [水産共同利用施設復旧支援事業]

(第2・3・4次助成) **岩手県**

### 津波で壊滅的被害を受けた 魚市場・漁港の復旧を支援



修復した堀内水産物荷捌施設

**2次・3次・4次と  
複合的に、効果的に支援**

岩手県の魚市場や漁港では、津波により養殖用の資機材、漁船の陸揚げ用機械、水産物の水揚げ用クレーンなど、大切な設備をことごとく奪われてしまいました。

そこで岩手県は本助成を活用し、『水産共同利用施設復旧支援事業』として第2・3・4次の3回にわたり、懸命に復旧に挑む漁業組合などの助成を続けてきました。

これにより、第2次で漁船巻揚げ機および荷役クレーンなどを、第3次で水産加工場などを、第4次では給水や殺菌設備、鮮度保持タンク、荷捌き設備などを助成。県内の13の魚市場にある水産共同利用施設の復旧を段階的かつ効果的に支援しています。

**普代村漁業協同組合  
(第2・4次助成)**  
**防潮堤と水門に救われ  
いち早く復旧に乗り出す**

普代村漁業協同組合で主に扱っているのは、黒崎漁港、太田名部漁港、白井漁港、沢向漁港、堀内漁港の五つの漁港で養殖されるワカメやコンブ、また定置網で獲れる秋サケです。この五つの漁港も津波の被害を受けました。

「それでも普代村の中心地は防潮堤と水門のお陰で無事でした。

人的被害が少なかったため、他の漁港に比べていち早く動き出すことができた



ワカメの養殖棚を指し示す  
前川健吾組合長



村を救った巨大な防潮堤と水門



太田名部漁港の海底が見えるほどの引き波

です」と前川健吾代表理事組合長は振り返ります。

普代村では、かつて深刻な津波被害に遭った経験をもとに、昭和42年に防潮堤を、昭和58年には15・5メートルという高さの水門を建設しました。津波は港にあった作業場や漁船などを破壊しながら押し寄せて来ましたが、この防潮堤と水門が最後の砦となり、多くの村人の命を救いました。

「漁師はすぐに青森や北海道に向かい、中古の漁船を購入しました。603隻の漁船の大半が津波で損失しましたが、いまは480隻くらいに戻っています。我々も

急ぎ港のガレキ撤去作業に着手。震災後4カ月の7月末にはワカメの採苗を開始することができ、以前の2500トンに対し、7割近くの水揚げができました」。

**五つの漁港が助成を受け  
復旧に向けて邁進**

さらに、津波に破壊された港の機能を取り戻そうと、五つの漁港はそれぞれ県が実施する本助成の支援を受けています。今回は三つの漁港を訪ねることができました。堀内漁港は、2次助成で漁船を陸揚げする巻き揚げ機4台、また4次助成で荷捌き施設や海藻加工施設の支援を受けています。黒崎漁港は、2次助成で荷役クレーンの導入を実現できました。太田名部漁港は、2次助成で荷役クレーン、3次助成で海藻加工機器類、4次助成で製氷貯氷施設や荷捌き施設の支援を受けています。

「まだ各港の機能が完全に取り戻せた訳ではありませんが、助成いただいたことで、働く場ができ、人も活気も戻ってきています。ワカメの水揚げも組合全体で今年は86%ぐらいまで回復する見込みです」と前川組合長は話します。



●堀内漁港  
荷捌き施設内の海藻加工作業場での出荷準備



●太田名部漁港  
漁港の荷捌き施設を修復



●太田名部漁港  
修繕が完了し稼働し始めた製氷施設



●黒崎漁港  
船をつり上げるホイストクレーン



●堀内漁港  
電気がなくても動かせるエンジン式(写真)を含む計4台の巻揚げ機を導入



綾里漁業協同組合  
(第2・4次助成)

一人また一人と力を合わせ  
破壊された漁港を復旧

綾里漁業協同組合は、綾里漁港や周囲の浜でワカメ、ホタテ貝、ホヤの養殖業、またアワビやウニ、コンブの採介藻漁業を営む組合員たちで構成されています。港には作業場が立ち並んでいましたが、この作業場もろとも巨大な津波が、養殖業などに不可欠な漁具、そして小型漁船の陸揚げに使用していた巻揚げ施設までも一度に奪い去ってしまいました。

一変してしまった漁港を呆然と見つめていた組合員でしたが、一人また一人と手を動かしはじめました。「いますくはじめなければ、多くの人が綾里から離れてしまうことになる」。組合員一丸となって養殖施設や定置網の設置場所のガレキ撤去、また地盤沈下が発生してしまった漁港の応急処置も進め、11月にワカメの種まきを行うことができました。



津波は漁協の2階を突き抜けたと示す  
綾里漁業協同組合 川上明参事

「ガレキ撤去作業ではあまり朝のなかつたみんなの表情が、本来の仕事に取りかかると、ぱつと明るくなりました。今



港にあった製氷・荷捌き施設は壊滅状態に

年3月の水揚げ時の笑顔は忘れられません」と川上明参事は思い起こします。

若い世代の夢を乗せた  
『小石浜Ⅱ恋し浜』ブランド

巻揚げ施設が損壊したため、養殖や採介藻漁業に使用する小型漁船の陸揚げは人力で行わなければなりません。これは危険も伴うため、2次助成を活用して緊急整備を進め、各浜の船揚げ場に23台を設置できました。さらに4次助成で、周辺の九つの浜で活用するベルトコンベアやホタテカッター、海水殺菌装置などの荷捌き機材を購入しました。現在、岸壁のかさ上げ工事とともに荷捌き施設の建設も進めています。

「しかし、漁港の完全な復活には、まだ何年もかかるとしています。それでも若い世代は『小石浜Ⅱ恋し浜』ブランドとしてホタテの駅弁などを売り出しはじめました。こうした組合員たちの情熱があれば、



船を浜にあげる巻き揚げ装置(綾里漁港、港地区に4機設置)



9浜分の荷捌き関連集荷機器を収納

きつと綾里の各漁港にかつての活気が戻ると信じています」と川上参事は話しています。

大船渡湾冷凍水産加工業協同組合(第3次助成)  
サンマの水揚げに合わせて  
復旧を進め、体制を整備

「10メートルぐらいの津波が港を襲い、二つあった冷蔵庫のドアが破られ、中にあった約21000トンの原材料はすべてダメになっしまいました」と大船渡湾冷凍水産加工業協同組合(大船渡湾冷凍)の鈴木憲助参事は話します。組合員の多くはサンマの冷凍加工



鈴木憲助参事(右)と  
佐藤泰造代表理事組合長(左)

「現在、大船渡湾冷凍水産加工業協同組合は、組合全体でサンマの水揚げが約85%近く、すでに復旧でき

岩手県が申請した複数の助成で  
いち早く復旧の一步を

「とにかく原料を確保できなければ、仕事が始まらなくなってしまう。まずはサンマの水揚げ時期までに体制を整えなければ」と組合員はもちろん、近所の方にも協力していただき、がむしゃらにガレキ撤去や港の復旧作業にあたりました。その甲斐あってなんとか昨年8月の水揚げに間に合わせる事ができました。

しかし、大切なのはそれを保管する冷蔵庫です。そこで今回の第3次助成で冷蔵施設を復旧することになりました。



助成でフォークリフトも購入



津波で海に沈んだ大船渡湾冷凍の冷蔵庫

「震災前の活気を取り戻したい」と鈴木参事は考えています。



修復した大船渡湾冷凍の永沢冷蔵庫



この街で、  
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団  
障がい者のクロネコメール便配達事業

# 自分に向いている仕事に出会って、 やりがいを感じています。

世界遺産の名所にたくさんのお客が集まる街、栃木県日光市。  
JR日光駅から車で約10分の住宅街が、「ふれ愛の森」のメール便配達地域です。  
2人のメイトさんがドライバーとなつて、2台の車を駆使。  
同乗のメイトさんとタッグを組みながら、配達を続けています。



食品販売など多くの仕事を試したけれど、メール便配達がいちばん自分に合っていると思うと手塚一貴（左）さん。体調と相談しながら、少しずつ仕事の時間を長くしていきたいそうです。石原義孝さん（右）は「喜ばれる物を届ける仕事」だと思うと嬉しいし、やりがいを感じると話してくれました。

「ふれ愛の森」がメール便配達事業を始めたのは、今から2年半前のことです。就労支援員の星野まゆみさんは、最初にその仕事の内容を聞いて、「これは誰にでもできる仕事ではない」と思ったそうです。そして、難しいからこそ、統合失調症などの



朝の仕分け風景。机の上には、地域を記号化した名称が貼ってあります。その上にメール便を次々と置いていきます。

精神障がいのあるメンバーが、この仕事を通して自信を持つのではないかと。それがトレーニングとなつて、就労に結びつくのではないかと、という希望を抱きました。

理事長の福田篤彦さんと相談して事業をスタートした星野さんは、運転できるメンバーが2人いたことから、車2台の営業ナンバーを取得。2人のドライバーのメイトさんと、3人のメイトさんがチームを組んで、多い日で180冊のメール便配達を始めたのです。

## 何重にもチェックするシステムを作った。

星野さんがまず心配したのは、誤配でした。絶対にあってはならない誤配をどう防いだらいいのかわからない。そしてたどりついたのが、何重にもチェックするシステムでした。

朝、メール便が届いたら、大きな机に貼ったエリア名の上に仕分けをします。そして、エリア別に作った

配達先をマークした地図と、住所や名前を書き込んだリストをメール便の上に置くと、仕分けが完了します。



●日光支店 日光今市センター  
面積118.2km<sup>2</sup>/人口24,275人/世帯数9,942世帯

### ●NPO法人ふれ愛の森

多機能型事業所。就労継続B型30名、就労移行18名。  
2010年からメール便配達を開始して2年半。メイトさんは5名。  
その他は、金谷ホテルバーカリーショップなどの食品販売に従事。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」  
参入施設数 324施設 従事者数 1,408人（2012年8月現在）  
お問い合わせは……（公財）ヤマト福祉財団 メール便担当  
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165  
<http://www.yamato-fukushi.jp/>

手作りの地図に届け先をマーク。一週間同じ色のサインペンを使用して、届け先の家の横にひとつひとつ星マークを付けていきます。星がたくさん付いて埋まったら地図を替え、ほぼ1ヶ月で一新しているそうです。

そして、ここで登場するのが、「ふれ愛の森」オリジナルのチェックシートです。すべてのメール便の受取人の名前、住所を書き込み、メール、ネット、案内状と3つに分類した項目に丸をつけます。これはカタログなどの企業メール、ネット注文で届くような個人メール、学校からの案内状のようなものと、大きく3つに分類したものです。

すべての名前と住所が書いてあるので、たとえ配達済みかどうかという問い合わせがあっても、何日に誰がどんなメール便を配達したかが必





「達成感を感じると、自信につながります。一般就労を目標に仕事を続けてほしい」と話す就労支援員の星野まゆみさん。

行われているのです。

「たら、〇〇さん、オッケーです」と報告します。すると他のメイトさんが「はい」と応答し、ドライバーさんがリストに終了チェックを入れるというのが一連の流れです。つまり、配達しながら、何重ものチェックが

## メール便配達を通して夢が見つかった。

メイトさんを始めて1年半という川崎義明さんは、小さなエリアから

始めて、少しずつ運転に慣れていったそうです。ずっと助手席には、支援員の星野さんが乗っていました。3ヶ月前からは一人で運転を担当しています。「いつか独立してメイトさんの仕事をしたい」とキツパリ答えてくれました。夢に向かって着々と歩んでいます。

「ふれ愛の森」では、配達地域を10のエリアに分割し、一人が2、3ヶ所を担当しています。誰かが休んでも、他の人が代わりをできるように、全員が全エリアの配達を経験しているそうです。

「すべてのエリアを配達しているから、自分が休むと他の人が大変になることがわかっていきます。だから、がんばって出てきてくれます。全員

## 誤配ゼロへの取り組みはお手本になる。

ヤマト運輸 栃木主管支店 日光支店 大久保幸男支店長は「ふれ愛の森」は、ほぼ誤配ゼロと言えます。この徹底した取り組みは、他のメイトさんにも知らせたいし、ぜひ参考にしてほしい。本当にすばらしいですね」と、メイトさんと支援員の方々の仕事ぶりを讃えます。

また、ピンクのバーコードシールのメール便は特にチェックしている

ず答えられるようになっていて、万全を期したりリストです。  
「最初はとても時間がかかりました。一度、配達時間が遅くなるからと、チェックしないで配達したことがあったのです。そんなときに限って、問い合わせがありました。それからは必ずリストに書き込んでから出かけています」という星野さん。今ではすっかり慣れて、メイトさんたちのリストアップ作業もあつという間に終了。その手際の良さは驚くほどでした。

## 配達しながら、指差し確認。かけ声でも確認。

ドライバーであるメイトさんの川崎義明さんは、地図にマークされた星を頼りに、その日のコース取りを考えます。後ろに乗ったメイトさんの石原義孝さん、手塚一貴さんの二人が、道の右サイドと左サイドに担当を分けて配達していきます。ポストの前では必ず住所と宛名を確認、指先確認してポストイング。車に戻



写真上／運転は前から好きだったという川崎義明さん。自分の担当エリアは全ルート頭に入っていると言います。  
写真中／届け先の方が庭先にいたので、メール便を手渡した手塚一貴さん。「ありがとう」と直接言ってもらえるのがうれしいと話します。  
写真右／メール便配達を始めて1年1ヶ月の石原義孝さん。メール便の宛先と、表札の住所や名前を必ず指先確認してから投函します。



前列左から／ふれ愛の森 福田篤序理事長、職員  
の星野まゆみさん、石原義孝さん、川崎義明さん、  
後列左から／ヤマト運輸 栃木主管支店 日光支店  
大久保幸男支店長、栃木主管支店 メール便課 吉  
澤英朗課長、ヤマト福祉財団 関東支部 平井忠志  
務長

という星野さんの言葉に、栃木主管支店 メール便課 吉澤英朗課長は「それは現金払いのものです。個人の方が出したメール便が多いので、確かに大切なものが多いですね。熱い想いで配達していることを知って感動しました。これからもできる限りサポートしていきたいと話します。  
配達に同行した日の午後は激しい雷と豪雨で、栃木県は記録的な雨量となりました。夏は雷や雨が多く、冬は降雪で配達が大変だというこの地域。雨の日はメール便が濡れないようにタオルを掛け、ポストからはみださない確認もしていると言います。丁寧な仕事は、今日も続けられています。



# ABC-MART

## 就労4年目を迎え、 いまや頼れるチームの一員です

株式会社エービーシー・マートさま

二つの企業で就労経験がある高橋慶全さん。3カ月のトライアルを経て平成21年に株式会社エービーシー・マートに入社しました。ここでの就労が、最も長い勤続となっています。



片山一也店長(右)と高橋慶全さん(左)

■ヤマト自立センター スワン工舎新座 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

■株式会社エービーシー・マート 1985年6月創立、統の小売チェーンを全国展開しています。ナショナルブランドを中心に、商品企画から販売まで一括管理できるSPA方式を導入することで、低価格・高品質な商品販売を実現。現在、国内の店舗数は683店(2012年9月末現在)売上げは1,407億61百万円(2012年2月期)です。



狭いバックヤードで責任を持って黙々と仕事をこなす高橋さん



お客様の求める商品を素早く探せるようにスタッフにも相談



天井まで届きそうな在庫棚、時には脚立によつて整理します

高橋慶全さん コクーン新都心店(平成21年6月2日入社)平日は4~5名で販売を行い、バックヤードは高橋さんが一人で責任を持って在庫整理をしています。「入荷が多い時は大変だけど、仕事は楽しい」と高橋さん。



株式会社エービーシー・マート  
総務部人事チーム 加藤洋平さん

大切なチームの一員として一緒にレベルアップを  
「当店のバックヤードは、高橋さんが一人で担当しています。彼がいなかったらお店は大変なことになるですよ」と片山一也店長は話します。片山さんがコクーン新都心店に着任する1年前から、高橋さんはお店で働いていました。  
「バックヤードでは、ブランド別に一つひとつの商品を色・サイズにまとめ在庫整理します。さらに入荷順に新しい商品が手前に来るように並べ替えていくという体力的にも大変な仕事です。でもこれができるいないと、販売スタッフは素早く商品を見つけることができません。すべての在庫はパソコンに登録していますが、バックヤードがきちんとできていないと、お店にあるはずの商品がすぐに取り出せずお客様をイライラさせてしまいます。その点、高橋さんの仕事は正確で安心できます」。  
片山さんが信頼するもうひとつの理由は、高橋さんの人柄です。  
「高橋さんは、いつも明るくまじ

めに仕事に取り組んでいます。また、はじめて入った応援スタッフにも気軽に声をかけてくれるやさしさもあります。スタッフとの連携もスムーズで、私が不在の時でもまったく心配がありません。高橋さんは、信頼できる大切なチームの一員なんです」。  
だからこそ、片山さんは高橋さんのこれから期待しています。  
「まだ私やスタッフがある程度の指示を出さないと、仕事を進められない時もありますが、最近は一緒になって考え、行動できるようになってきました。後もう少し自発的に動けるようにレベルアップできるといいですね」。  
総務部人事チームの加藤洋平さんは「当社は、2005年度より障がいのある方の雇用を積極的に進め、いま40店舗ぐらいで働いていただいています。仕事は、バックヤードの作業だけではなく、店内の清掃、また接客などもあります。私も以前、店舗で障がいのある方と一緒に働いていましたが、きちんと指示を出して、連携ができれば、特別な問題はなかったですね。大切なのは、周りのスタッフとコミュニケーションをどうとれるかです。多少うまくいかなかったりする時があっても、それはそれでしっかり店長を通して解決して成長してもらえればいい。長く働いてキャリアを積み、高橋さんのようにチームの一人としてしっかり働ける方を増やしていきたいと思っています」。



## こんな年だからこそみんなで一緒に ヤマトグループ社員のみなさま ありがとうございました

9月13日に東京都港区のザ・プリンス パークタワー東京でヤマト運輸労働組合第67回定期中央大会が開催され、



その中で『夏のカンパ』の贈呈式が行われました。今年もヤマト労連をはじめヤマト運輸労働組合でヤマトグループ社員のみなさんから集められた夏のカンパから、ヤマト福祉財団に5000万円のご寄付をいただきました。

有富理事長はお礼の挨拶の中で財団の事業について触れ、東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金の一年間の募金活動が終了したこと、速い支援を意識して助成したことの一つの効果でなくいろいろな波及効果があったことなどをご報告しました。

また、財団の福祉助成事業の見直しを行い、障がいのある方達が働いてお金を稼げるようにするための支援として『障がい者給料増額支援助成金』を新設したこと、その



中の『レベルアップ助成金』は今まで100万円が上限だった助成金を500万円に引き上げ、この助成金を使っ



お礼のあいさつに立った有富理事長

て稼げる体制を作り、生産性を上げ、品質を上げるための資金として、九つの事業所に助成金を差し上げたことなどをご報告しました。

「いただいたご寄付は絶対に無駄にしません。効果があつて、ヤマトグループの徳につながるような、そんな仕事の一翼を担います」とお礼のことばの最後を締めくくりました。

## 大事な人を思うクリスマスに スワンのクリスマスケーキを

スワンのクリスマスケーキがリニューアルしました。



サンタさんがトナカイと一緒にプレゼントを家に届けるシーンをかたどった『ハッピースワン』、今年話題のスカイツリーを思わせる『ハッピーSWANツリー』。そして定番のドイツの伝統菓子シュトレンがミニクラメン2鉢とセットになりました。小麦・卵・乳製品不使用のハッピークリスマスも、おいしさを添えてかわいいハート型のケーキに変身しました。

毎年のことだけれど忙しい年末だからこそ、クリスマスケーキを囲んで、大事な家族を思い、あるいは遠く離れた家族や大事な人を思うひとときにしてほしい・・・スワンの願いです。

- ヤマトグループ社員のみなさん、作業所さんには割引があります。ご予約いただいたケーキはご自宅までお届けします。
- 作業所からもご予約できます

(株)スワン本部 担当: 藤野まで

TEL: 03-3543-1067

ホームページ <http://www.swanbakery.jp/>



XAハッピースワン  
3500円(送料・税込)

XGハッピーSWANツリー  
3500円(送料・税込)



XH花物語  
4300円(送料・税込)

XFハッピー♡クリスマス  
3600円(送料・税込)





# 大事な人を思うクリスマスに スワンのクリスマスケーキを

ご予約いただいたケーキはご自宅までお届けします



ご予約受付中

ヤマトグループ社員、作業所さんには割引のシステムがあります。

●作業所からもご予約できます。

(株)スワン本部 担当: 藤野

TEL:03-3543-1067

<http://www.swanbakery.jp/>



## 公益財団法人ヤマト福祉財団全国支部連絡先 (ヤマト運輸(株)内)

| 支 部     | 事務長   | 連絡先               |
|---------|-------|-------------------|
| 北海道支部   | 千葉栄一  | TEL. 011-891-5040 |
| 東北支部    | 小原 守  | TEL. 022-374-8065 |
| 東京支部    | 徳武範夫  | TEL. 03-5564-3702 |
| 関東支部    | 愛澤啓二  | TEL. 045-508-6106 |
| 関東支部東地区 | 平井 忠  | TEL. 043-259-7364 |
| 北信越支部   | 酒井 貢  | TEL. 025-231-9513 |
| 中部支部    | 後藤淳浩  | TEL. 052-725-3633 |
| 関西支部    | 石田久雄  | TEL. 06-6682-8570 |
| 中国支部    | 竹下憲雄  | TEL. 082-849-1451 |
| 四国支部    | 紅露 隆  | TEL. 0877-46-7875 |
| 九州支部    | 北川秀隆  | TEL. 092-931-3310 |
| 沖縄支部    | 佐渡山一郎 | TEL. 098-840-3605 |

新事務長に就任しました。

よろしくお願いいたします。



東京支部  
徳武 範夫

